

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月11日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-------------|
| 事業所番号 | 3771500752 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 有隣会 | | |
| 事業所名 | グループホームさくら | | |
| 所在地 | 香川県綾歌郡綾川町滝宮 557-5 (電話) 087-876-5661 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 香川県高松市番町一丁目10番35号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年8月6日 | 評価決定日 | 平成19年10月11日 |

【情報提供票より】(19年 7月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 16年 3月30日 |
| ユニット数 | 2ユニット 利用定員数計 18人 |
| 職員数 | 15人 常勤 12人、非常勤 3人、常勤換算 16.8人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------------|
| 建物構造 | 鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分 |
|------|----------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|------------|
| 家賃(平均月額) | 39,000円 | その他の経費(月額) | 15,000円+実費 |
| 敷金 | 有(円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,200円 | | |

(4) 利用者の概要(7月 27日現在)

| | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 3名 | 女性 15名 |
| 要介護1 | 1名 | 要介護2 | 4名 |
| 要介護3 | 7名 | 要介護4 | 5名 |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 名 |
| 年齢 | 平均 85歳 | 最低 69歳 | 最高 97歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------|
| 協力医療機関名 | 溝渕クリニック |
|---------|---------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の認知症ケアに対する熱い思いで、研修研究を重ねて創設されたこのグループホームは、管理者の理念方針が明らかで、職員もそれを十分熟知している。1階と2階に1ユニットずつ配置されているが、職員はどちらにも自然に声をかけ、効果的なケアに取り組んでおり、利用者一人ひとりの立場に立って、その方本位のきめ細やかな配慮がなされたケアを実践している。また、職員の間関係が良く、いつも笑顔を絶やさず支援している様子は、利用者や家族の不安を和らげ、利用者の笑顔と明るい雰囲気につなげている。隣接した医療機関からは、いつでも協力体制が確保されており、利用者は安心して暮らしている。今後、更なる発展を期待したい。

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価では、ケアサービスの分野でいくつかの改善課題があったが、その後、運営者、管理者、職員は課題を共有し、何度も討議が行われ、意欲的に取り組んでいる様子が見える。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 職員全員で自己評価に取り組み、今後、更なる質の向上に向けて実践していくとする意欲が見える。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 事業所から活動報告や前年度の外部評価の結果等を報告し、参加者は、それぞれの立場で活発な意見交換がなされている。この会議を活かして、協力支援をしていきたいとの声は頼もしく、事業所からの今後の取り組みの方針も明らかである。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 一人ひとりの家族に送られる「季節のお便り」はとても分かりやすく、良いと好評であり、また、訪問された時は、ホームでの暮らしぶりや健康状態等を伝え、家族からもご意見や要望を聞き、職員は共有して運営に反映させている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域のゲートボール大会の見学に行ったり、ホーム周辺の水路の大掃除に参加する等、交流を深めて馴染みの関係になりつつある。運営推進会議でも、地域交流が推進されるよう取り組んでいきたいと積極的な姿勢が見える。今後、更なる取り組みが期待される。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念を基にして、地域の中でその人らしく生活していけるよう、分かりやすい理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は理念を共有し、日々話し合っケアに活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域のゲートボール大会の見学に行ったり、地域の溝掃除に職員と共に参加して、積極的に交流することに努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 運営者、管理者、職員共に、自己評価や外部評価の意義を理解し、よく話し合いの機会を持ち、改善に向けて前向き取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 7月の運営推進会議で事業所の取り組み等を報告し、活発な意見をもらっている。その意見や要望等を、今後の運営に反映させていきたいと前向きな姿勢がうかがえる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>管理者が相談に行ったり、町の担当者から情報をもらう等、共にサービスの向上に努めている。</p> | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>定期的な便り以外にも、訪問された時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を話し合っている。個々にあわせ、電話等でも報告している。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>管理者が窓口になり、家族の訪問時や家族会等で、何でも言ってもらえるように働きかけている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。また、外部へも表せるよう町役場や国民健康保険団体連合会を紹介している。</p> | | |
| 9 | 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>基本的には、各ユニットの職員は固定化し、馴染みの職員が継続的に支援している。</p> | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>計画的に、各段階に応じた研修に参加している。2か月に1回、開催される法人内の研修にも意欲的に参加し、自己研鑽をしている。</p> | | |
| 11 | 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>管理者はグループホーム協議会等に参加し、他の事業所と交流を図っている。職員も他の同業者と親しく、いろいろ話し合ったり、気分転換を図っている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居する前に、ホームへ見学を兼ねて遊びに来てもらったり、管理者や職員が自宅を訪問して、利用者や家族に生活の意向を聞くようにし、信頼関係を築いて安心して入居できるよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、共に暮らす家族として利用者の得意分野を共有し、その力を発揮してもらっている。また、感謝の言葉をかけ、和やかな雰囲気がうかがえる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情から、利用者の思いを汲み取るよう努め、それを記録し、職員間で共有、ミニカンファレンスで話し合っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の意向や家族の希望、要望を聞き、職員全員でカンファレンスを行い、それぞれの気づきや意見、アイデアを反映させて、個別的な介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎月1回モニタリングを行い、記録している。また、本人の状態変化が生じそうな時や生じた場合は、必要な関係者とよく話し合い、見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の受診や、医療処置を受けながらの生活の継続など、医療連携体制の強化や、近隣の高齢者で、自宅での介護が困難な時のショートステイ等、多機能性を活かした体制を整えている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診を行っている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は、職員が代行して家族に報告する等、支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 協力医療機関が隣接しているので、緊急時や重度化した場合は、対応を行う体制にある。 | ○ | 重度化や終末期の対応については、入居時に本人、家族、医療関係者、事業所の職員等を交えて話し合いを行い、方針を定めて、職員全員が共有していけるよう文書化することが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 一人ひとりの誇りを尊重して、その人に合わせた言葉かけや対応を行っている。記録等の個人情報の取り扱いについては、秘密保持の徹底が図られている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時間に休みたい、外へ行きたい等、本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立づくりから調理、片付けまで、食事一連の流れを利用者と職員が楽しみながら行っているが、誤えんをする利用者が多く、見守りや介助のため、一緒に食事は摂れていない。 | ○ | 食事の時間には、見守りと介助をする人、共に食事をする人に分かれて支援する等、一緒に食事を楽しめる具体的な工夫について、検討されることが望まれる。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者一人ひとりの希望に合わせて、入りたい日や時間に、入浴を楽しんでいる。利用者同士がその日の順番を決める等、確認しあっている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 調理を楽しむ人、洗濯物干しや取り込み等、それぞれ得意とする分野で力を発揮してもらい、感謝の言葉を伝えている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や利用者の気分、希望を取り入れて、散歩や買物に出かけている。また、車椅子や車を利用してドライブに出かけ、季節を感じられるよう支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 管理者及び職員は、鍵をかけることの弊害を理解しているが、徘徊のある人が入居しているため、家族に十分説明し、理解を得て鍵をかけている。朝夕の草花の水やり、洗濯物干しや取り入れの時など、少しずつ開放時間を設ける努力をしている。 | ○ | 職員の見守り方法を徹底し、また、一人ひとりの気分や状態をきめ細かく観察して、一日の内で少しでも長く鍵をかけずに、安心して暮らせるよう支援していくことが望まれる。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 法人全体で、年に2回、利用者も参加して防災訓練を行い、避難経路の確認等を行っている。運営推進会議で、地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立の段階で、栄養士にチェックしてもらっている。食事や水分摂取量については、チェック表に記入して、職員はおおよその摂取カロリーを把握している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールや玄関等は自然の光を取り入れて、適度に明るく、共用空間はすべて適当な広さにあり、また、季節の花も生けられ、居心地が良い。また、食物を刻む音など、昼食の準備の雰囲気を感じられ、五感刺激への配慮がうかがえる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 備え付けのベッドや洗面台以外は、利用者の好みや馴染みの物を持ってきたり、好みのカーテンをつるす等、利用者の思い思いに配慮がなされている。 | | |